

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470200932		
法人名	社会福祉法人東北福祉会		
事業所名	せんだんの杜ものうなかつやま認知症対応型共同生活介護事業所	ユニット名	
所在地	宮城県石巻市桃生町給人町字東町96番地2		
自己評価作成日	令和 4年 9月16日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 10月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、石巻市桃生町の中津山第一小学校区域に立地しており、地域住民の皆様がより身近な地域でが介護が必要になっても安心して生活を継続できるよう、デイサービス事業所と一体的に運営を行っています。  
グループホームにおいては、入居者の方々が生活を営む上でつながりのある方々との関係性を重視し、認知症の症状に応じたコミュニケーション機会の創出やご本人がもっている能力を日常生活の中で発揮できる機会や場面づくりに力を入れています。また、豊かな自然環境の中で、季節毎の花を眺め、野菜を収穫し、食べる機会を設けながら、皆様が笑顔で過ごせる機会を多く持てるよう、努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸道の桃生・豊里ICから10分、田園地帯の一角に平屋建ての「せんだんの杜ものうなかつやま」がある。デイサービスや児童クラブが同敷地内に併設されており、生活に密着した連携が取られている。敬老の日に、児童クラブよりコメントや絵を描いた吊るし飾りが届いた。コロナ禍の中、感染症対策を取りつつ南方の花菖蒲や米山のチューリップ見物などドライブで出かけ楽しんでいる。ホームの中で手作りの衣装を着てのひな祭りや夏祭りの西瓜割、魚釣りゲームをして楽しんでいる。職員がサンタ姿になり皆でケーキを食べてのクリスマス会を行い、入居者と職員と一緒に笑顔で楽しく暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **せんだんの杜ものうなかつやま認知症対応型共同生活介護事業所** )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示している。日々のケアにおける判断基準として、活用している。	ホーム理念の「『笑顔』一緒に笑って、一緒に泣いて」などを事務室の正面に掲示している。年度初めに職員会議で話し合い継続している。日常生活や行事、レク活動など笑顔で寄り添うことを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在、面会制限を行っているが、必要に応じて、ご家族と顔を合わせる機会を作り、散髪等、馴染みの理容師に来ていただいている。	隣接する児童クラブの子どもが、敬老の日に絵やコメントを書いた吊るし飾りを持ってきた。区長より広報や回覧板が届く。地域の方から枝豆を貰い月見に食べた。職員が地区の清掃活動に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進員との意見交換の場において、地域におけるグループホームの役割や認知症の方の理解促進について、話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス利用の状況、評価結果の開示等、随意行っている。また、頂いた意見に基づいて、事業所の取組みに生かしている。	年6回、支所・包括職員や区長、民生委員、家族などに書面を送付し意見を貰っている。「入居者と交流を図りたい」「住民と協力し、安心して暮らせる地域になるように」との意見があった。7月は桃生公民館で開催した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会への参加の連絡、意見の聴取、会場の提供等、協力を頂いている。	地域包括から入居の相談や空き状況の問い合わせがある。市より、感染対策のパンフレットをもらいコロナワクチンをかかりつけ医等で全員接種した。石巻市の出前講座「高齢者虐待・権利擁護」に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア委員会において、事業所の状況、課題について意見を頂いたり、振り返りの機会を設けている。	「ちょっと待って」など不親切なケアがないか、互いのケアで気になることはないかなどチェックシートで振り返っている。家に帰りたいたいと言う方は、家に連絡や一緒に散歩、ドライブに出かける等気分転換をしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の権利擁護・虐待防止等の内部研修についてスタッフが参加し、伝達をしている。また、自己点検チェックをスタッフ一人一人が実施している。	勉強会でスピーチロック等、虐待に繋がることを理解し、虐待防止に努めている。管理者は、職員の疲労やストレスが、ケアに影響しないかを把握し、1人に負担がかからないよう、シフトの調整など行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している方はいないが、権利擁護のための制度・事業が存在していることや研修情報について周知している、理解を深められるよう努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に対して、都度、対面での説明し、同意頂いた上で契約・解約手続きを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の支援の場で要望・意向を伺い、記録等を通じて共有し、改善等に反映している。ご家族等にはケアプランの説明の際、意向等を伺い、反映させている。	毎月預り金の確認に来た時などに聞いている。寒さ対策にひざ掛けや好きな寿司を持って来る家族がいる。毎月送る便りの「杜の小道」は、活動の様子の写真があり家族は楽しみにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議の場で話し合い、利用者のケア方法や行事の計画、必要な環境整備等について意見をもらい、改善に繋げられるようにしている。	居室での転倒防止に手すりをつけるなど、安全にトイレに行けるように職員間で検討している。担当職員が必要物品を把握し、管理者に話し調理器具など必要な物品は随時、買い替えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のケアに対する思いや大切にしたいことを聞き取りながら、個人の目標を把握し、達成のためのサポートを適宜行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の実践の場において、振り返る機会を持ち異なった視点からケアを見つめる機会を設定し、支援の幅を広げ、技術向上できるよう努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各職能団体の研修会や協議会等に職員が参加する機会を作っている。コロナ渦であるため、ネットワークづくりの訪問はできないため、オンラインでの交流となっている。	宮城県グループホーム協議会の会長より「認知症の理解について」の講話がオンラインで有り参加した。同法人合同で新人・中堅・管理者研修会があり出席している。隣接するデイサービスと職員同士の交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前は、ご本人との面談、在宅サービス担当者等からの情報収集を行い、安心して生活できるよう働き掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族のこれまでの生活状況をご家族との面談し、担当ケアマネジャーからの情報収集を行った上で、不安や要望に耳を傾け、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が安心して生活できるよう、居室等の場所、使い慣れた生活用品等の配置の検討、介護保険外のサービス等について話し合いを行い、対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残像機能を生かすことを目標に掲げ、日常生活の中で、一緒に作業をしたり、手伝ってもらう機会を意識的に作っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会をする時間が制限されているため、生活の様子を詳しく伝える機会や実際にコミュニケーションを行える機会を持つようになっている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用している床屋さんの利用をしたり、ご兄弟、お孫さん、親類の方等と話す機会や異動した馴染みのスタッフと話す機会を持ち、これまでの関係性の継続に努めている。	コロナ禍の中で孫が窓越しに面会に来て喜んでいる方や遠方の家族と電話する方など、出来るだけ関係が途切れないように支援している。入居者の仲良し同士でちぎり絵など一緒に作業している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが適宜、コミュニケーション支援を行い、良好な関係性を保てるよう介入している。精神面や身体面などを含め、その日、その時の状況について、申し送り等で共有できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず、契約が終了した際、ご家族や関係機関と連携し、生活が継続できるようサポートを行うと共に、終了後の情報提供等を随時行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や要望が表出できるよう、耳を傾けることを意識するとともに、アセスメントを通して、ご本人の潜在的ニーズを把握するよう、努めている。	入居者の日常から思いを引き出し対応することが多い。相撲が好きで本人の意向で職員と一緒に星取表を15日日間つけた方もいる。「団子やかき氷、アイスクリームを食べたい」など職員が買って来て思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人やご家族への訪問による聞き取り担当ケアマネジャーからの情報収集を行い、これまでの暮らしぶりや生活歴を理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで、前日、一昨日の生活の心身状況を伝え、変わりゆく状態に応じた対応を行えるよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングやスタッフ同士の話し合いを通して、状態に応じてケア方法の改善等を共有し、実践に繋げている。	「楽しく暮らしたい」方は、糖尿病など体調管理しながら好きなテレビを見たり、音楽を聞くなどプランに入れた。常食を食べてた方が退院後、嚥下機能が低下し、医師の助言で刻み食や栄養補助食に変更した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人への介護実践や働き掛けに対する反応について、ケース欄に記入したり、ヒヤリハット記録を共有し、ケアや計画改善に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、相談を行い、必要な支援を行えるよう努めている。特に通院や突発的な体調不良の際は医療機関への通院支援をスタッフが担い、事後的にご家族へ繋げられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの暮らしぶりを把握しながら、安心して生活が継続できるよう、人的、物的な資源を把握できるよう、情報収集し、必要に応じて活用している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、これまでにかかりつけ医となっていた医療機関で入居後も通院や往診を受けれるよう支援している。	全員、訪問医やかかりつけ医の訪問診療で、安心した医療体制になっている。夜間の緊急時は、管理者に連絡を取り救急隊に連絡することが多い。歯科医が随時訪問診療に来訪してる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	嘱託医や希望するかかりつけ医に対して、判断に迷う場合は連絡を取り、受診の可否等について確認を取っている。また、定期的な往診の機会を通して、日々の体調面、支援の状況を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、速やかに心身状況、介護の状況を伝え、入院中状況等はご家族に伺い、地域医療連携室の担当相談員に確認しながら状況把握に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護に関する指針について、説明をしている。終末期の状況について、ご家族等へ随時状況報告を行い、予後や事業所としてできる事、できないことを伝えている。	入居時に「看取り介護に関する指針」について家族に説明し同意を得ている。重度化した場合、予後やホームの対応を説明している。訪問医や家族と相談し、病院や特養に転移することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者急変マニュアルの整備、普通救命講習やAED取扱方法など定期的な講習の受講を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害(地震・火災。風水害)に関するマニュアルを整備し、その妥当性を検証する訓練を実施している。	年2回、夜間想定や風水害避難訓練を運営推進会議のメンバーに声掛けし実施している。大声で「火事だー」と知らせる事や、誰が避難したか職員同士で声掛けするなど反省した。3日分備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りや尊厳を損なうことのないよう、配慮をしながらコミュニケーションを図るようにしている。また内部研修や権利擁護の研修会への参加を通じた、学びの機会を設けている。	呼びかけは「～さん」と呼んでいる。上からの目線でなく、同じ目線で接し不快にさせない言葉をかけている。家族より「髪は短く切らないで長いまま結ぶ」「洗面所の櫛を本人の好みの高さに置いて」など対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思を表出する際はじっくり耳を傾けるようにしている。思いや希望については記録や申し送りで職員と共に共有し、可能な範囲で実現できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間、食事の時間など、ご本人の心身状況に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に関するこだわりやルーティンなど、ご本人やご家族に伺いながら、対応している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の嗜好、食事に対する意向を事前に伺い、把握しながら、季節に応じた旬の食材や料理を提供し、調理作業、後片付けを手伝ってもらっている。	ホームの畑や家族が持って来た旬の野菜などを使い、料理をしている。誕生日に本人の好きな寿司やチーズケーキを持って来る家族もいる。皆でホットケーキや焼きそばを楽しむ。献立は、法人の栄養士に見て貰う。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・バランス・水分については、生活習慣や活動量に応じて調整している。意思表示できる方には随時お聞きしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療を通して、口腔状態の確認、アドバイスをもらっている。口腔内の残差物や薬が残っていないか、食後に口腔内を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレで自力で排泄が出来るよう工夫している。失敗が増えてきた場合は介護方法を検討し、本人の自尊心を損ねないような支援をしている。	日中は、自力で排泄する方は3名、他の方は、一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間での声掛けや歩行介助などでトイレ誘導している。夜間は、声掛けやパッドの大きさ、紙オムツなど個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて、排便感覚を把握し、水分量の調整や水分や繊維質を含む食材の提供などを行い、工夫している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回以上の頻度で入浴を行っており、ご本人の清潔状態や気候に応じて、タイミングを柔軟に変更している。ご本人の心情、意向を汲み取り、曜日や時間帯を変更している。	自宅の風呂は五右衛門風呂で、薪で風呂を沸かしたなど昔話をしながら入浴している。湯上りにスポーツドリンクを飲み水分補給をしている。浴槽内など手すりや滑り止めマットを敷き、安全に入浴出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣・意向はもちろんのこと、体調や体力等を考慮し、休息や就寝時間の調整に適宜対応できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量、効能については、ファイリングし、随時確認し、理解できるよう努めている。服薬による症状の変化については、適宜、かかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月ごとの行事や趣味嗜好に合わせ、様々な軽作業やレクリエーションを実施している。これまでの生活歴や性格に合わせ、生活の中での役割や喜びが持てる機会創出に努めている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦であり、外出の頻度は減っているが、機会を見つけて外食や戸外へ出かける機会を何度か設けることが出来た。	天気の良い日は、玄関先で日光浴をしながらお茶を飲んだり、花や野菜を見て寛いでいる。ドライブで寿司を食べたり、南方の花菖蒲や米山のチューリップ見学などに出掛けている。敷地内で芋煮会や夏祭りを楽しんだ。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人によって金銭管理能力には差があるが、お金の管理、支出に関して疑問や不安がある場合、丁寧に現状を説明し、所持したり使える機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば随時親しい方との電話をしたり、ご本人から電話をして話をする機会を作っている。 また、定期的に事業所通信を通じて、画像で生活の様子を伝えている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節に応じて、掲示物や生活用品を変化させている。また利用者が見えやすい、使用しやすい位置に配置できるよう配慮している。不快・混乱・事故防止の観点から、随時改善を重ねている。	食堂は、一日2回消毒や二酸化炭素濃度を測定し高くなった時、窓を開けるなど換気をしている。芋煮会の写真や銀杏などのちぎり絵を飾り、紙で作ったかぼちゃのハロウィンが季節を感じる。趣味嗜好に合わせ軽作業やレクリエーション活動をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常生活の中で言い争いや不快感を示す場合など、一人で過ごせて、他者と距離を置ける空間を個室の他に設け、お連れする場合もある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人が使い慣れたものを持ってきており、家具や電化製品なども安心して操作できるよう配置している。	自宅で使用していた椅子やテーブル、テレビ、遺影など持ち込んでいる。好きな猫や家族の写真を飾っている。自分で購読している新聞やテレビを見たり、夫の遺影に水を供えたりして、思い思いの居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はご本人が使い慣れたものを持ってきており、家具や電化製品なども安心して操作できるよう配置している。		